

令和7年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡中央高等学校

【スクールミッション】

探究する学びと仲間や地域との関わりを通して、学が楽しさを知り、社会で活躍できる学力と豊かな人間性を身に付け、「(立志) 夢を夢でおわらせない力、(気づき) いつもだれかを思って考えられる力、(共生) ふるさとのために活動する力」を持った、次代を担い、地域を担う人材を育成します。

校訓 ——— 立志・気づき・共生 ———

1 教育目標 (建学の精神)

- (1) 自ら思考し、創造し、自学自律の態度を身につけた人間を育成する
- (2) 広い視野と洞察力を持ち、豊かな人間性と果敢な実行力を備えた人間を育成する
- (3) 自他を敬愛する精神を培い、地域や社会に奉仕し、貢献できる人間を育成する

評価基準	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

2 本年度の重点目標と重点事項 生徒一人ひとりに寄り添い、生徒の可能性を引き出す教育活動の推進	自己評価			学校関係者評価		
	今年度の成果と課題	評価 (前年)	来年度への改善点	評価	意見・要望	
(1) 確かな学力の定着と学ぶ意欲・態度の育成	① 学習習慣の定着、主体的・自立的に学ぶ生徒を育成する授業実践	主体的に学びに向かう姿勢や雰囲気はまだ十分とは言えないが、生徒・保護者の評価から前年度より若干改善が見られた。	C (C)	生徒の「主体的に学びに向かう態度」を高めるための授業改善を推進する。	B	○社会の変化にともない学力観も大きく変わる中、指導方法や教材を工夫しており、高く評価できる。
	② ICT機器の効果的な活用の推進と研修、及び「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」「課題情報(新規)」に係る学習内容の研修	校外のICTに関する研修会への積極的な参加や校内研修の実施により、教員の指導力が向上し、生徒の学習に成果を挙げている。	A (A)	ICTを活用した事例や教材の校内での共有化を推進する。	A	○生徒の主体的な学びや学習意欲の向上について、更なる研修が必要である。
	③ 「指導と評価」の適切な運用と研究及び授業改善	「指導と評価の一体化」について概ね適切に行われているが、「主体的に学びに向かう力」に関する認識を深める必要がある。	B (A)	「主体的に学びに向かう力」に関する評価に関する職員の共通認識を深める。	B	○学習時間の目標達成について、生徒の振り返りや自己評価をする仕組みが必要と考える。
	④ 普通科、総合学科の特色を活かした探究的な学習の推進	計画的な指導と準備により、生徒の意欲が高まり、進路選択やキャリア形成に活かすことができた。探究学習発表会は、発表者の学習成果を全校生徒、教員で共有し、今後の探究学習に向けた意欲向上の機会となった。	A (A)	今年度の成果と課題を踏まえ、探究学習全体の指導や教員の分担を見直す。	A	○ICT利用については、生徒の健康面に十分に配慮しながら、自主的に学習を進められる工夫の必要である。
	⑤ 特別支援教育の理解を深める研修と、組織的な支援体制の確立と運営	支援委員会を中心に情報共有と組織的対応を行い、支援につなげることができた。	A (A)	支援を要する生徒の早期発見・早期対応のために、家庭との連携・協働を進める。	A	
(2) 生徒の資質・能力を最大限に引き出す教育環境の充実	① キャリア教育総合実践プログラムに基づく系統的なキャリア教育の実践	キャリア体験学習やインターンシップは、生徒のキャリア形成や進路意識の向上につながり、効果があった。	A (A)	引き続き生徒の進路意識を向上させるための事前・事後の指導を徹底する。	A	○キャリア教育や探究的な学びが明確な目的をもって実施する体制が構築されており、発表会の様子からも昨年度よりも深い学びとなっていると感じた。
	② 「産業社会と人間」、「総合探究・課題研究(総合的な探究の時間)」の系統的な教育実践、及び組織的運営	企業や行政機関など多くの外部の方々との関わりで、生徒は多くの学びを得ることができた。	A (A)	生徒が主体的に調査研究に取り組み、振り返りできる時間を確保する。	A	○総合学科は学校の大きな特色であるが、普通科と相互交流することで、両学科の良さを引き出し、生徒の意欲向上に寄与するのではないかと考える。
	③ 多様な進路希望や入試制度、就職試験に対応した計画的・組織的な進路指導・支援の推進	進路情報を生徒や保護者に適宜提供し、進路選択や実現に効果を上げた。小論文・志望理由書・面接の個別指導は効果を上げた。進路意識が低い生徒も若干見られ、今後の課題である。	B (B)	進路・年次・教科それぞれの立場で生徒の進路意識を高める指導を行う。	A	○企業や行政機関など外部との関わりは、生徒のキャリア形成や資質・能力の育成の基盤となるものであるため、引き続き推進してほしい。
	④ 普通科・総合学科の特色ある教育課程編成の継続的な評価・検証と令和8年度入学生教育課程の準備	学科・系列ごとに地域や関係機関と連携し、特色ある活動や学びを広げることができた。	B (B)	教育課程を変更した最初の入学生を迎えるので、変更した部分の目的が達成できるように準備する。	B	
(3) 自他を尊重する態度と自律的な行動力の育成	① 自他の尊厳を大切にし、社会人としての規範意識、マナーを理解し実践できる生徒の育成	多くの生徒が明るく挨拶を交わしているが、挨拶を返せない生徒も一定数いる。スカート丈など制服の着こなし指導に係る課題がある。	B (B)	公共の場である学校では、人権や個性の尊重との両立を図りながら、社会の一員として必要な規範や身だしなみを整える場である意識を高める。	B	○学校評議員との懇談会に参加した生徒の様子やアンケートから、生徒は楽しく充実した学校生活を送っている様子がうかがえる。
	② 人間関係の構築力とソーシャルスキルの構築とコミュニケーション力の育成	対人関係に関する相談や情報提供には、迅速かつ組織的に対応することができた。引き続き個々の特性や良さを引き出す環境づくりを行っている。	B (B)	生徒の成長を支える「発達支持的生徒指導」の認識をもって指導に当たるとともに、互いを尊重する集団づくりを進める。	A	○学校行事に自主的に取り組ませることで、コミュニケーション能力を育成してほしい。
	③ 特別活動、部活動、ボランティア活動、校外活動に積極的に参加する生徒の育成と活性化	中央祭の一般公開復活2日目で、昨年度同様来校者は1000人以上となり、初日の校内企画も含め、生徒が協働して非常に充実したものとなった。部加入率は66.3%と昨年度(69%)より減少となった。	B (B)	発達支持的生徒指導の観点から、生徒が充実感や他者との共感が得られるように、生徒会活動や部活動の活性化を図る。	A	○身だしなみやマナー、挨拶について、社会生活の中で重要なことであることを生徒に考えさせながら、引き続き指導を続けてほしい。
	④ 成人年齢の引き下げに伴う主権者教育や消費者教育等の実践	公民科や家庭科など関連教科での学習や生徒減少からの注意喚起で意識を高めることができた。	B (B)	市民社会に生きる一員として必要な法教育を引き続き行う。	B	
(4) 健康管理・安全教育の推進と危機管理体制の強化	① 自己の健康の維持・増進、及び、自己管理意識の向上	衛生指導の徹底により、生徒の健康管理や衛生に対する意識が高まった。健診結果を心身の健康管理につなげることができた。	B (B)	引き続き健康観察の習慣化を呼びかけながら、健康への自己管理意識を高める。	B	○健康管理と安全教育は、学校生活の基盤であるので、引き続き適時・適切な環境整備をお願いします。
	② 安全・安心な学習環境の整備と清掃活動の徹底	地震・火災と水害を想定した2度の避難訓練と消火器点検及び毎月の安全点検を行い、災害時の対応を確認した。盗難防止対策として、校内点検を定期的に実施した。	B (B)	生徒が主体的に防災・減災の意識と行動力を身に付ける方策を検討・実行する。	B	○感染症対策の影響でマスク依存など生徒の人間関係の構築に問題が生じていないか心配である。
	③ 危機管理体制の整備、及び、施設設備の安全点検の徹底と迅速な対応	これまでの危機管理マニュアルに、今年度頻出したクマ出没時の対応マニュアルを加え、危機管理体制を充実させることができた。	B (B)	災害時や緊急時の初動対応が適切に行われるように、必要な機器・道具の操作や体制を再確認する。	B	
(5) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取り組みの推進	① ホームページ等による情報発信の充実	行事ごとのホームページ更新や大会成績の垂れ幕作成・掲示など、本校の最新の様子や情報を迅速に発信することができた。	A (A)	より効果的な周知方法や手段を検討し実行していく。	A	
	② 地域の中学生や保護者、地域社会へのスクール・ポリシーの周知	学校要覧、学校案内への掲載をはじめ、学校説明会などで周知に努めた。	B (B)	スクール・ポリシーの周知と運動した教育活動を推進する。	B	○地域に開かれた学校や地域で活躍する人材の育成について、鶴岡中央高の果たす役割は大きく、その役割を果たしていると考えている。多忙解消も図りながら、生徒に寄り添い郷土愛を育む学びを継続させてほしい。
	③ PTA、同窓会並びに鶴岡市や関係団体、企業等との連携、協働活動の活性化	朝の登校指導に延べ10名の役員参加があった。多くの教育活動において地域や各団体との連携を進めることができた。	A (A)	保護者・教員とも負担軽減を図りながら、生徒の成長を支えられる活動を行う。	A	○特色ある取り組みをホームページ等で情報発信することは、生徒や関係者のモチベーション向上につながるものと思います。引き続き情報発信の充実をお願いします。
	④ 校務分掌の整備と業務標準化による組織体制の活性化	今年度から年次副担任を減員、課専任を増員とした。生徒や保護者のアンケートから本校の教育活動や教員の指導は高い評価となっており、ICTへの対応や各年次体制等に課題が生じた。	C (B)	教員の働き方改革や多様な勤務形態、教員のキャリアアップ・スキルアップを踏まえた校務分掌体制を検討・構築する。	B	
	⑤ 令和8年度入試改革に向けた計画的な取り組みと実践	初めての前期(特色)選抜は、事前の準備と組織的対応により、円滑に実施することができた。課題を検証し、次年度の業務に活かしていく。	B (B)	入学者選抜に関する具体的な方法や運営について検討し、実行していく。	B	○広報活動は、外部へのアンケートを実施してもよいのではないかと考える。